



逆境を乗り越えて

未曾有のコロナ禍に見舞われ、生徒も保護者の皆様も教職員も、すべての人々が未だかつてない生活に疲弊しています。その影響は容易に払しょくできるものではなく、今もなお、様々な形で日常に影を落としています。あとどのくらいしたらリスクがゼロになるのか、誰にもわかりません。しかしながら、できる限りの予防対策に努めて、6月1日より学校を再開することが決定されました。

失ったものは小さくありません。4月・5月の授業、各種コンクールや中体連夏季大会、修学旅行、……。予定されていた行事・イベントはことごとく中止または延期となりました。その延期自体も確定したのではなく、今後の社会状況に左右されることもあり得ます。生徒のいないグラウンドやテニスコートには一面に草が生え、教職員の作業だけでは維持・管理が追いつかない状態です。以前の状態に戻すことが困難になっているものなんと多いことでしょう。

しかし、悲観してばかりでは前進の妨げとなります。生徒にはこれからの未来が広がっています。そのための令和2年度の学校生活をどう過ごすのか。これまで当然のようにやってきたことができない今、この逆境をチャンスに変えるしかありません。自分自身にもそう言い聞かせています。では、どう苦境を乗り越えていったらよいのでしょうか。生徒にはこう伝えたいと思います。「予定していたことができなくなると嘆く暇があったら、今の状況で代わりにできることを創造しましょう。今年しかできないことが見つかるかもしれません。まだ真っ白のキャンバスにどのような絵を描くのか、決めるのは皆さんです。アイデアと工夫で、楽しく意味ある生活がいくらでも生み出せます。それを先生たちと一緒に考えていきましょう。振り返った時、まんざらでもなかったと思えるように」。

学校を再開するにあたり、次のことをご承知いただきたいと思います。

生徒にとっての一大事は学習です。前学年の未履修事項については、当初の授業で補完します。また、臨時休業中の課題の実施状態を把握し、授業で理解と定着を促します。さらに、本年度の学習内容を履修できるよう、各教科における年間指導計画を見直して授業を進めていきます。必然的に定期テストや評定の時期も例年とは異なってきます。3年生については、7月末に暫定評価・評定を行い、三者面談につなげる予定です。

コンクールや中体連が中止になったこと踏まえ、その代替措置については現在検討中です。何らかの形で、これまでの努力の成果を発揮できる機会を確保していきます。修学旅行は9月



に、かしわ祭は10月に実施時期を変更しました。その他、生徒会行事等を含め、生徒の創意を生かした内容・活動を充実させ、学校教育目標・重点目標に迫っていきます。

例年6月までに実施していた検診は、今後改めて日程が決まってきます。また、臨時休業中に記入をお願いしていた健康観察カードは、当面継続させていただきます。毎朝の検温並びに健康チェックにご協力ください。学校においては、手洗い・手指消毒、換気、座席の配列・生徒間の距離等に配慮し、予防対策を油断することなく継続していきます。



大中生はすごい！—臨時休業中、こんなことを考えていました—

「臨時休業中に考えたこと」を書くよう課題を出したところ、多くの生徒から提出がありました。コロナ関連の新聞記事を切り抜いてスクラップブックをつくり各記事に対する自分の意見を記入したもの、感染症問題が他人事から自分事になり不安や危機感を作文ににじませたもの、感染症について詳細に調べたもの、日本や海外の感染症対策の経過を追ったもの、自分を見つめ、社会を見つめ、外界と自分との関係から想像力豊かに人間の生き方を考えたもの、新聞の読み方や漢字・言葉の知識の獲得に及んでいるもの、情報の適切な受けとめ方に気づいたもの、政治やリーダーのあり方について考えたもの…。読ませてもらいながら、これからの社会を担う大中生のもつ力と可能性に心底感動しました。自分の頭で自由に考えられる時間が、生徒に主体的な学びを生み出したと言えます。ほんの一部だけですが、作文から抜粋して紹介します。

「『行ってきます！』と元気よくあいさつして学校に行くこと、そこで授業を受けること、友達と遊ぶこと。どれも当たり前だと感じるけれど、もしかしたらこれってとっても幸せかもしれない。」

「中学校にはいろいろな人がいる。多数決になることも、自分の意見が通らないことも。その中で最善の考え方と判断ができるようにしていきたい。相手をよく知り、理解することから。」

「コロナが広がったことで、家族の大切さなど深く考えさせられることがあった。」

「ウイルスの怖さの一つが、不安から生まれる差別。全国のみんなで、一人一人の意識を高めて頑張ることが大切です。」

「このような状況の中でも働き続けてくれている医療現場の方々や店員さんなどへの感謝の気持ちを忘れずに生活していきたい。」

「コロナが多くの命と大切な時間を奪いました。広めたのは私たち人間です。しかし、誰かを責めることはできません。一人一人が意識を変えればきっと幸せな日が…。」

「考えたことは政治について。もっと違う対応ができたのではないかと思う。マスクを配るのではなくて、臨時に工場を作るとか…。また、厳しい事業者を救ってほしい。」

「この作文を書いたことで、改めて今の世界の深刻さや（自分の）やるべきことが分かった。」

「今は誰もがマイナスに考えがちですが、友情の尊さに気がつき、いつもは言えない『ありがとう』の気持ちを伝えられるチャンスだとプラスに考えて私は生きています。」

(文責 校長)